

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	相模湖町立 内郷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2		6	13
生徒数	44	60	46		150	

研究の概要

1. 研究主題

<p>15年度研究テーマ「個に応じた学習指導の研究」 - 基礎・基本的な内容の定着を図るための学習指導・評価の研究 -</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・数学(重点研究) 少人数制授業・習熟度別授業の実施 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 2学年・英語(重点研究) ペア・グループ学習の研究 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 14年度の研究成果と生徒に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠をを広げ、全職員が個々にテーマを設定し取り組む。</p>
--

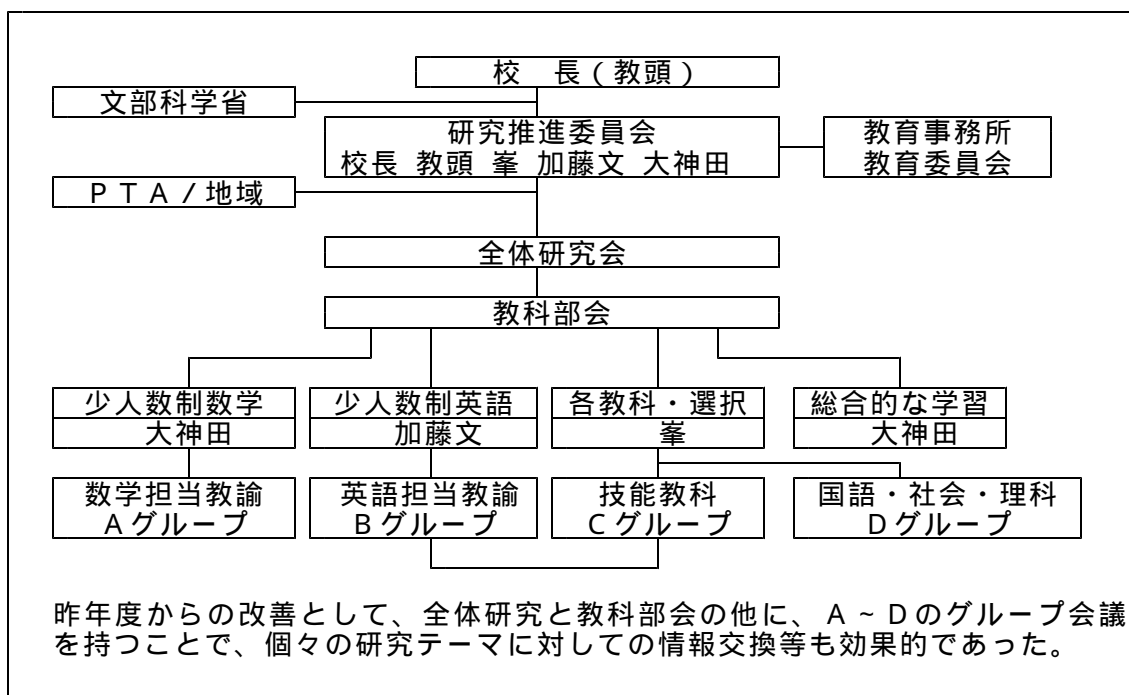
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「個に応じた学習指導の研究」 学習指導の工夫改善 仮説 学習指導の工夫改善により基礎・基本的な内容の定着を図り、個に応じた分かる授業を展開することで、生徒の学習意欲や学力は向上する。 研究内容・方法 学校教育目標の育てたい生徒像に即して、生徒の実態を多面的に把握し、「学力」に関する課題を明らかにする。 各教科の視点から「基礎・基本」「確かな学力」を捉え直し、その向上のための教材、指導方法を開発する。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「個に応じた学習指導の研究」 基礎的・基本的な内容の定着を図るための学習指導・評価の研究 仮説 学習目標を明らかにし、明確な評価基準を設定することで、生徒が学習する目的や努力する喜びを知り、学習意欲や学力は向上する。 研究内容・方法 14年度の実績を生徒側、指導者側、保護者等、多角的に評価し、課題を明らかにして、より有効で実態に即した具体的な方策を実践する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「個に応じた学習指導の研究」 主体的に学力向上へ取り組む生徒の育成</p> <p>仮説 生徒一人ひとりの理解や習熟の程度に応じて、じっくり取り組む課題や発展的（より個を伸ばす）な課題の提示等、きめ細かな指導により学ぶ楽しさを実感することで学力の向上が図られる。</p> <p>研究内容・方法 生徒の「学力」に関する分析状況を行い、生徒の姿から本事業の成果を評価する。 3年間の成果と課題をまとめ、冊子等によって公開するとともに、事業終了後も継続的な実践が可能となるよう、次年度への基礎整備を行う。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

教科共通の成果

生徒の各教科における学習行動実態の共通確認と全校指導体制の確立

各教科における学力を把握し、本校の生徒の実態を踏まえて、今求められている「生きる力」と関連した学力を考察し、個々の研究テーマに基づき研究を深めることができた。

数学、理科においては、継続的に追跡調査する抽出生徒を多段階から決定し、結果の記録を累積し、指導方法の分析に役立てることができた。

重点研究の数学や英語においては、学期ごとのアンケートを実施することで、指導方法や学習教材の工夫や改善に努めることができた。

教材開発の重要性と実践

個に応じた指導の充実を図るための教材開発

習熟度に応じた多段階の学習プリントや、学習の遅れを補う補助的な資料の作成は生徒にも定着し、学習意欲や学力向上効果が見られた。

一斉授業におけるペア学習・グループ学習の活用

重点研究の英語科が取り組んできた、ペア・グループ学習についての研究成果は、少人数や習熟度だけでなく、他教科における一斉授業の中でも学習方法の

一つとして取り組まれるようになった。

小テストの活用と補習における基礎学力の定着

小テストは各教科実施しているが、数学・理科においては小テストと追試（補習）を行うことで、学力の定着と理科を苦手としている生徒がいかに変容していったかなどをアンケート調査を実施し分析することで効果的に役立てることができた。

2. 今後の課題

教科共通の課題

各教科における学力を把握し、本校の生徒の実態を踏まえて、今求められている「生きる力」と関連した学力を考察し、本校としてのとらえ方を示す。

-1 「研究視点」の明確化

- ・年間の計画や授業研究においても、研究協議の視点が明確であること。
- ・次年度は各教科個人研究テーマの策定を明確にしたい。
 - 課題解決指向的テーマ（ここが問題だから改善したい）
 - 目標思考的テーマ（こういう生徒に育てたい）
 - 開発的テーマ（新しい指導方法を研究したい）

-2 検証指標の設定

- ・検証の指標を定めるとともに、検証可能な達成目標を設定し、研究主題に示された目標が達成されたと判断する基準を明確にしておきたい。
- ・研究仮説と成果との因果関係が実証可能な設定

-3 客観的な情報収集の必要性

- ・「基礎基本」状況調査、学力テストの分析、生徒・保護者の意識調査等
- ・授業研究においてもビデオによる記録、発問記録、板書記録等、客観的な記録を収集、分析する。

-4 成果と課題の分析及び改善計画

- ・次のステップへ向けて改善計画を立案する場合、達成目標と研究成果との差を分析することが必要である。その分析が詳細であるほど改善の視点は明確なものとなる。
- ・数値で表すことが困難な場合でも、より具体的な表現で表す努力と分析できる観察力が必要である。

必修教科の時数確保のための手だてについて

- ・年間時数の確保のために行事や学年活動の見直しをする。
- ・行事のねらいと3年間を見通した計画性

指導の工夫と改善について

- ・基礎・基本の学習内容が確実に定着するために有効な教育活動の展開、日常の授業改善・充実を図る方法を研究し、実践する。
- ・普通授業での習熟度別学習の実践と工夫改善（学習集団・学習形態・学習プリント・評価方法等）
- ・T・T指導の効果的な活用方法の研究
- ・少人数指導の授業での効果的指導方法の研究

個に応じた指導の充実を図るための教材開発を行う。

- ・習熟度に応じた多段階の学習プリントや、学習の遅れを補う補助的な資料の作成と累積。

選択教科の選択コースの充実、習熟度別学習や基礎・発展コースの組み方を工夫する。

- ・選択授業における望ましい習熟度別学習の実践とその工夫改善
- ・習熟度別の学習プリントなどの教材開発

指導に生きる評価の在り方について研究する。

- ・生徒が自己の学習の改善に生かせる「指導と一体化した評価」の在り方
- ・個に応じた指導のための評価基準の設定と見直し
- ・定期テストの内容の検討、生徒の学力診断のための分析の継続

長期休業中の補充学習について

- ・学年の枠をはずして、教員が交替で指導に当たる。
- ・保護者や地域の指導ボランティアを募り、地域ぐるみで生徒の学力向上への体制

を作る。

- 小学校との連携について
- ・定期的に小学校と連絡会を持ち、相互の情報を交換するとともに、小学校から中学校へのスムーズな接続の在り方を考える。
- ・互いに授業を公開し、小学校、中学校それぞれの授業方法を見直し、生徒にとってよりよい連携を目指す。

他のフロンティアスクールと情報交換

- ・学校訪問や授業参観などを計画し、先進的な取り組みを学び本校の研究に生かす。
- ・参考資料などを定期的に交換する。

学力等把握のための学校としての取組

生活アンケート調査の実施

- ・年1回実施
- ・2学年対象

重点研究教科(数学・英語)学習状況調査アンケート実施

- ・各学期実施
- 数学/全学年実施
- 英語/2学年実施

各教科研究テーマ別のアンケート実施

- ・アンケート実施教科/国語・理科・社会・美術・保健体育

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・学校便り等による理解と啓発
- ・研究冊子の作成、関係機関への発送
平成16年2月初旬完成予定
- ・教育事務所及び市町村教育委員会等の主催する研修会への実践事例の提供
地区研究会等における公開授業
平成15年7月31日(木)学力向上フロンティアスクール事業研修会/講演
平成15年10月17日(金)指導方法改善研修/公開授業
- ・研究発表会の開催
平成16年10月 研究発表/公開授業予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無